

令和3年度 近畿地方整備局管内における事故発生傾向

近畿地方整備局管内において令和3年度に発生した直轄工事事故を分析すると、以下のようになっています。傾向を理解して、事故防止対策に活用してください。

■工事等事故防止重点対策5項目※における曜日別事故発生件数

※対象事故：地下埋設管及び敷設ケーブルに対する事故、架空線に対する事故、高所作業箇所からの墜落事故、重機による施設及び作業員等との接触事故、資材・仮設材及び工具の飛来落下による事故

休日前に多い傾向



祝日前平日8日のうち2件事故が発生。金曜日47日のうち12件事故が発生しており、休日前日に事故が多く発生する傾向があります。これは、**休日前による気の緩みや工程上のあせりによって生じる作業員の注意力・集中力の低下などの意識的要因が影響している**と考えられます。

事故発生件数の算出方法

①土曜・日曜日は休日と扱う。振替休日は祝日に含む。

例) 8月6日(金)は平日と扱う

8月7日(土)は休日と扱う

8月8日(日・山の日)は祝日と扱う

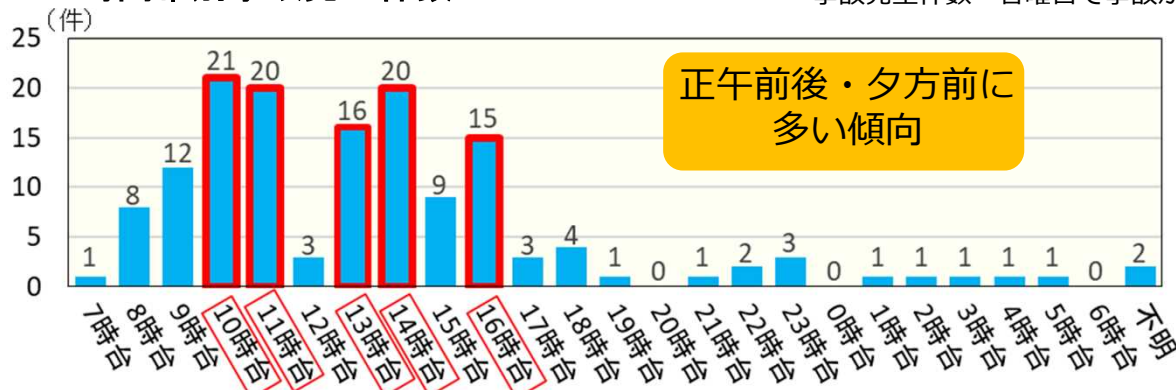
8月9日(月・振替休日)は祝日と扱う

8月10日(火)は祝日の翌平日と扱う

②事故発生件数の計算式は下記の通り。

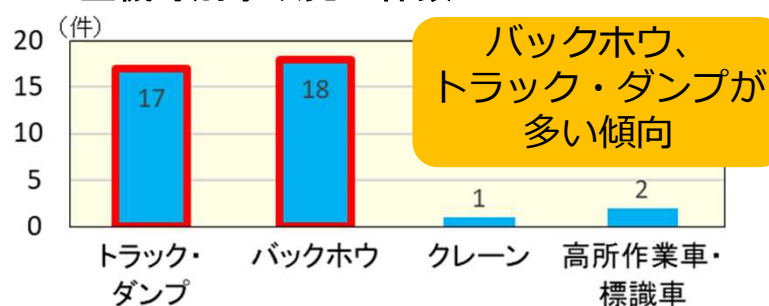
事故発生件数 = 各曜日で事故が発生した件数 ÷ 各曜日の日数

■時間帯別事故発生件数



正午前後・夕方前の**気持ちの緩みや疲れが出やすい時間に事故が発生する傾向**があります。

■重機等別事故発生件数

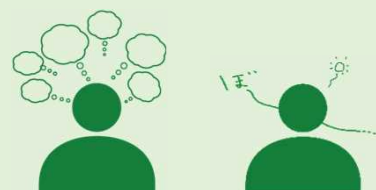


バックホウ、トラック・ダンプは使用頻度が高いため事故件数も多くなりますが、バックホウ、トラック・ダンプによる事故の特徴として、計画やルールを守らなかったことで事故につながったケースが多いことがあげられます。

経験や慣れによる「これくらいは大丈夫」という危険軽視が事故につながっていると考えられます。

ほんの少しの気が緩みが事故につながってしまいます。一方で高い緊張感と集中力を長時間保つことで疲労が蓄積し、事故につながるという側面もあります。

適度な緊張感と集中力を維持できるよう、**休憩時間の確保、現場環境の改善、安全教育の実施、コミュニケーションの確保**を図りましょう。



注意力散漫や気のゆるみは事故につながります

事故は様々な要因の組合せによるものもありますが、気を緩めることなく、基本に忠実に、定められた計画通りに作業等を行うことが事故防止の第一歩です。

熱中症予防と新型コロナウイルス感染防止を両立させましょう

～感染防止のためのマスク着用により熱中症リスクが高まります～

新型コロナウイルス感染症はまだまだ油断のできない状況が続いています。マスクを着用していることにより体内に熱がこもりやすくなり、熱中症のリスクが高くなります。例年よりもいっそう熱中症に注意しましょう。

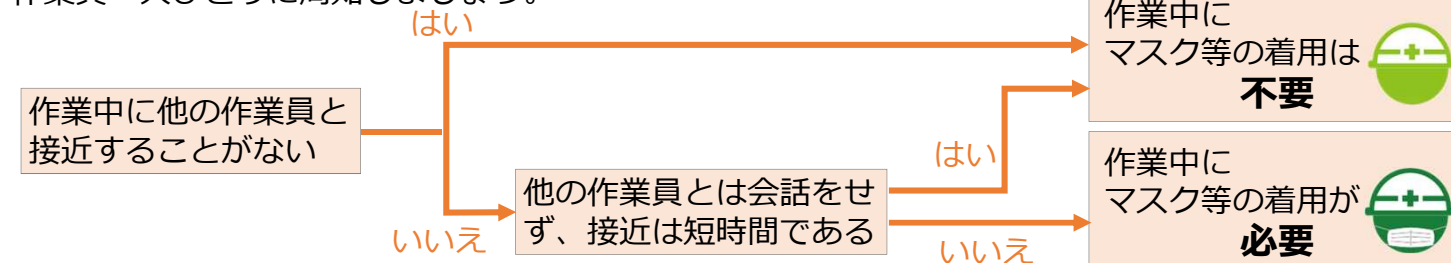
マスク着用と熱中症対策

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためにマスクは有効ですが、これからむかえる高温多湿な時期にあっては、マスクを着用していない場合と比べ身体に負担がかかり、より熱中症のリスクが高くなる恐れがあります。

換気の悪い屋内空間で複数で作業を行う場合にはマスク等を着用する必要がありますが、単独作業や屋外で他の作業員と十分な距離（2m以上）が確保できる場合等には、熱中症予防の観点からマスク等を外した方がよい場合も考えられます。**熱中症予防に配慮した上で、感染防止を図るには「マスク等を着用する場面」、「マスク等の選び方」、「正しい着用方法」を徹底することが重要です。**

マスク等を着用すべき場面のフロー

管理者は、個々の作業が行われる状況を踏まえ、マスク等を着用すべき場面を特定し、作業員一人ひとりに周知しましょう。



マスク等着用の「必要」「不要」は、「場面の切り替わり」によっても変化することに注意しましょう

出典：リーフレット「建設現場における熱中症予防と新型コロナウイルス感染防止」厚生労働省

マスク等の選定にあたっての考え方

飛沫飛散防止等の効果が高いマスク等を着用していても、作業中の息苦しさを和らげるため、**顔とマスク等との間に隙間を作った場合には感染防止効果が低下します。**

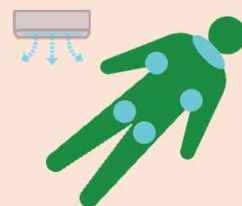
マスク等の選定に当たっては、①作業負荷のほか、②作業時の人との距離、③作業場所の状況、④連続作業時間、⑤コミュニケーションの取りやすさなどにも留意しましょう。

マスク等の種類と特性については厚生労働省のリーフレットに詳しく掲載されています。適したマスク等を選定して熱中症対策を図りましょう。

リーフレット「建設現場における熱中症予防と新型コロナウイルス感染防止」厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000781018.pdf>



- しっかりと身体を休めるために、休憩時間の分散やマスクを外せる休憩場所の確保に努めましょう。
- 少しでも異変を感じたら、**涼しい場所へ避難させ、ベルト・服をゆるめ身体を冷やしましょう。**
- 熱中症の症状が急速に悪化することもあります。異変を感じて休む時には、**決して一人きりにさせないようにしましょう。**
- 病院に行くべきか迷った時にはあんぜん321号（R3.5）のチャートを参考にしてください。



熱中症が疑われる時は、首筋、わき、足の付け根などを冷やしましょう



熱中症予防と感染防止に向けた現場のルールを定め、徹底しましょう。